

「けやき俳句の会」会報（第百八十五回）

平成三十年十一月

第百八十五回句会記録

★日時 十一月七日

★場所 稲毛記念館

（参加者十八名）

★真樹先生投句

④ 立冬や木造底曳船眠る

魔女もいる残花しんがり秋薔薇

まず海を見てそれからの冬鴉

★真樹先生選句（◎は特選）

◎◎ 空と海溶けて無色の今朝の冬

◎◎ 忘却の波寄せ返す今朝の冬

◎◎ 波音に松の傾ぐや冬立つ日

◎ 太古へと誘う波の音も冬

◎ 吐息つく翅ふるふると冬の蝶

◎ 日時計の補正点検冬に入る

◎ 冬の朝サルビアの花さらに赤く

◎ 人工の浜辺冬草いま盛り

◎ 菊花展眺む東屋汁粉飲む

◎ 色変へぬ松海星庵てふ茶室

◎ 日時計もいねむりしたる浮寝鳥

◎ 箒草色さまざまに枯れてゆく

★会員互選句

◎ 冬来たる地蔵の衣新となる。

◎ 新松子水路ころころ誰に会う

◎ 胸一杯花の精吸ふ小春かな

◎ 小春風人と花との交差点

◎ 樞紅葉はにかむごとく色付きぬ

青嵐 樹音 隼人 隼人 樹音

夕佳 東洋 遙風 夕佳 紀泉 隼人 青嵐 一華 高志 東洋 真弓 藍愛

③ 温室の異国の花も冬立つ日

③ 今朝の冬のち幽けき母想ふ

② 返り花この世あはれのほの白く

② 冬鴉人工池で水浴びる

② 雪国の母の人生花八手

② 秋日和刻を知らせる花時計

② 雨上がり冬の蠅螂思案顔

② ふるさとの海はなつかし今朝の冬

② 秋さびし貝殻波の成すがまま

② 蔓たぐり忘れし実のまろび出づ

② 立冬や海鳥群れる東京湾

① 小さ目の土鍋求めて冬支度

① 栗ごはん匠の味へ道半ば

① 山茶花や埋立地区の園に咲き

① 都会から来て集う女神無月

① 今朝の冬波は映すや白き雲

① 銀白の朝日を映す冬の海

① 十三夜裏道を行く老い一人

① 冬そうび座れぬソファーはけぬ靴

藍愛 遙風 冬水 冬水 史烙 紀泉 真弓 一華 かな太 遙風 かな太 かな太 冬水 香魚 一華 夕佳 高志 藍愛

【次回開催】

★日時・十二月五日（水）

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「新」を含め三句